南阿蘇村 復興むらづくりだより

VOL.27

復興推進課
TEL（67）1113

■袴野地区に活気を

黒川地区の「すがるの里」、立野地域の「立野わかもん会」、乙ヶ瀬地区の「おとがせ桜ん会」に引き続き、袴野地区でも地域を盛り上げようと「はかまの会」が結成されました。

はかまの会は、地震の被害が特にひどく、地区の約8割の世帯が半壊以上のり災判定をうけた袴野地区において、地区に帰ってきている若者が立ち上げた組織です。4月に地獄温泉「すずめの湯」の一部オープンや、7月に小規模住宅地区改良事業の概略説明会の実施、地区に家を新築し戻られる方もいるなど、着実に復興が進んでいる中、何かしらの形で地区に貢献できないかという思いで、結成されました。

計4回の会議の結果、二つの取り組みに絞られました。一つ目は、住民減少に伴い困難になってきた除草作業に、ヤギを活用するものです。この方法は獣害対策も兼ねており、初年度はヤギの食事量、管理費等を探りながら行う予定です。二つ目は田舎体験イベントです。袴野ならではの農業体験、地獄温泉入浴、BBQなどオール袴野でのイベントを企画中です。

■立野地域、高校生と交流イベント

7月23日(火)に立野地域では、「立野わかもん会」と熊本大学が連携し、「第二回サイエンスカフェ」が開催されました。イベントを通して高校生に地震の体験や避難所での経験を伝えることで、震災について学ぶ機会になりました。

当日は熊本第二高校の高校生30人が参加。午前中は、国交省による震災遺構の見学や、わかもん会の案内による新阿蘇大橋や立野神社などをみてもらい、地域が復興していく様子を感じてもらいました。午後からは地元の婦人会である「たんぽぽの会」の協力のもと炊き出し体験が行われ、学生と一緒におにぎりと豚汁を作りました。

調理後は避難所として使用している2階の教室で、震災時の体験談やサイエンスカフェの感想を話しながら食事をとり、学生との交流も深まりました。

■ため池、集客スポットへ

5月26日、沢津野地区復興むらづくり協議会で、同地区内の農業用ため池に「あざみヶ池」と命名されました。この名前は、ため池周辺を「薊（あざみ）ヶ平」と呼んでいたことが由来しています。

沢津野地区では地区の取り組みとして、「観光に来たお客さんを、地区へ呼び込めるような場所づくり」、「地区の魅力を向上させ、来訪者の増加による地区の活性化」というテーマがありました。そこでテーマの実現にあたり、ため池の活用が必要不可欠と判断し、今回の命名にいたりました。

6月には池周辺や記念碑周辺の草刈りによる整地をし、植栽の準備を行いました。植栽する花は咲く時期、管理の方法などをリストアップし、協議会で選定後、植栽する予定です。また、今後は花やあざみヶ池から見える夕日や星を活かし、写真スポットとして集客する方法も検討しています。